

図 5B.18 図 5B.11 と同様。ただし5月 31 日から6月9日までの 10 日間平均場。



図 5B. 19 図 5B. 11 と同様。ただし6月 10 日から 19 日までの 10 日間平均場。



図 5B. 20 図 5B. 11 と同様。ただし 6 月 20 日から 29 日までの 10 日間平均場。

付録 50. 人工衛星観測にみられる茨城沖の高気圧性渦

人工衛星からの海面水温やクロロフィルーa 濃度分布に、2011 年5月後半から6月にかけて茨城沖でみられた高気圧性渦の特徴がみられている。ここでは、Terra/MODIS 衛星によって観測された海面水温とクロロフィルーa 濃度分布を示す。内部に暖水(図 5C.1)および低いクロロフィルーa 濃度(図 5C.2)を取り込んだ中規模渦構造が茨城沖海域に明瞭に示されている。本モデル比較に用いた多くのモデルで、この高気圧性渦を捉えているが、その詳細な構造や場所にはモデル間で違いがみられる(付録 図 5.7 を参照のこと)。



図 50.1 Terra/MODIS 衛星により観測された 2011 年 5 月 15 日の海面水温分布。 (画像データは、千葉大学環境リモートセンシング研究センターのデータベース (http://www.cr.chiba-u.jp/~database-jp/wiki/wiki.cgi)より取得)



図 5C.2 Terra/MODIS 衛星により観測された(a) 2011 年 5 月 19 日および(b) 2011 年 5 月 21 日のクロロフィル-a 濃度の水平分布。 (画像データは、千葉大学環境リモートセンシング研究センターのデータベース

(http://www.cr.chiba-u.jp/~database-jp/wiki/wiki.cgi/より取得)

付録 5D. 福島沿岸域での放射能の航空機観測結果



 図 5D.1 2011年4月18日に航空機により測定された第一原発近傍の海上での放射能強度 分布(グロスカウント率、単位は cps)。single 2×4×10 NaI Crystal のカウント率 で規格化された値であり、ラドンの影響は除かれている(Guss, 2011)[39]。また、飛行 高度は海面上150 m から700 m(MEXT, 2011)[86]。